

千葉県社保協通信

2023年度 No1 2023年 6月 15日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉セカビル3F

TEL: 043-225-6790 FAX: 043-221-0138 Eメール syaho2022@themis.ocn.ne.jp

声をあげ 動けば 変わる!! 軍拡NO!いのちくらしを守る政治に

自民・公明・維新・国民により、平和といのち・くらしを脅かす悪法の採決強行が続く中、6月10日(土)千葉市内で定期総会を開催。オンライン併用で13団体・11地域45人が出席。地域からの運動を大きく広げ、大軍拡を阻止し、社会保障拡充に向け、奮闘することを確認しました。

司会の矢澤純副会長は「人権が侵害される政治が今行われている。安倍首相の魂を受け継ぐ岸田政治。憲法にある不断の努力によって権利を勝ち取っていく運動が今こそ必要」とあいさつ。麻生定雄年金者組合本部書記長、白井社保協根本敦子事務局次長を議長に選出しました。鈴木徳男会長が開会あいさつ。つづいて来賓の中央社保協林信悟事務局長とみわ県会議員が登壇。林氏は「ブルドーザーのように悪法推進、税収は3年連続で過去最高にも係わらず、軍拡の一方で社会保障費は削減」と批判。みわ県議は今年度県予算で医療機関等支援が約1万施設拡大したが、他県に比較して1施設当たりの金額が少ないと指摘。COVID19では、5人に1人が医療施設外で亡くなっているなど県政の実態を報告しました。

藤田まつ子事務局長が活動報告。社会保障と県民生活をめぐる情勢に触れつつ「今求められているのは、軍事拡大ではなく、憲法の理念に基づき国・自治体が責任を持って住民のいのちと健康、安全・安心を確保する施策を実行すること」

【特別報告】

●**綱領 建史** (天海訴訟高裁逆転勝訴・天海訴訟事務局)

天海訴訟は、重度身体障害者である天海さんが65歳になった際に、千葉市から障害福祉サービスの更新を却下され、全サービスが打ち切られたことに対して起こされた訴訟。千葉地裁では原告敗訴となったが、東京高裁で逆転勝訴。高裁は千葉市が裁量権を認めずに福祉サービスを提供しなかった問題を指摘。しかし、千葉市は判決を不服として上告。最終的な勝訴判決が確定するまで闘い続ける。

●**小山 真樹さん** (生活保護引き下げ違憲訴訟について～千葉県生活と健康を守る会連合会)

いのちのとりで千葉訴訟で、5月26日千葉地裁は生活保護減額を「違法」として基準引き下げ処分を取り消す判決を言い渡した。歪み調整は違法ではないとされたが、デフレ調整は「整合性を欠く」とした。生活保護利用者の生活を重視し、「弱者に寄りそう判断」に基づく判決であった。生活保護引き下げは2012年から始まり、全国29地裁で提訴。本件で10勝目。2013年前の生活保護基準に戻すことを求め、引き続き支援を広げたい。

●**鈴木 英雄さん** (国保・後期高齢者保険制度アンケートからみた加入者の実態と今後の課題～県社保協国保部会)

「国保」と「後期高齢者医療」合わせて1082枚を集約。回答者の年齢・職業は多岐にわたる。高い保険料、支払いの困難、医療へのアクセスの困難など多くのコメントが寄せられた。意見として保険料の引き下げ、税金の医療への使用を求める声。自治体キャラバンや団体や地域で議論し、来年度の国保運営方針の見直しにむけて活用してゆく。

【皆さんの発言から】

●**石塚 俊彦さん** (千葉県民主医療機関連合会)

2022年の民医連の取り組みについて、2つのポイントを紹介。1) 後期高齢者への窓口負担2割化に関するアンケート。結果では窓口負担の増加が受診抑制につながっていることが明らかに。2) 介護ウェブに関する取り組みで、民医連は学習活動や国会要請などを行い、法案の提出を延期させることができた。引き続き医療や介護福祉の従事者と協力し、公的医療費の自己負担をゼロにするための活動を進める。

(2面へつづく)

千葉県社保協 第29回定期総会



とし、新年度の課題と活動方針を提起。矢澤純副会長が、決算報告と予算案を提案しました。各団体・地域の発言の後、全ての提案を拍手で採択。新年度役員を代表して、竹内敏昭事務局次長があいさつし、閉会しました。

●**連帯のご挨拶・メッセージありがとうございました**

- *中央社会保障推進協議会
- *東京社会保障推進協議会
- *神奈川県社会保障推進協議会
- *山梨県社会保障推進協議会
- *埼玉県社会保障推進協議会
- *千葉県母親連絡会
- *日本共産党千葉県議団

